

## 古墳時代とは？

I -1-①



I -1-①

今からおよそ1,700年前、日本各地に土を高く盛(の)った巨大な墓がつくられるようになります。これらは、弥生時代からの米づくりの発達によって蓄(たま)えた富(とみ)と大きな権力をもつ支配者である豪族(ひやくしやく)の墓で、「古墳(こふん)」と呼ばれています。この古墳がつくられた約400年間を「古墳時代」と呼んでいます。

古墳は西日本でつくられはじめ、4世紀後半(1650年前)頃になると、東北地方にも広まり、ようやくこの名取の地にも古墳時代が訪(おと)れたようです。

名取では、全長168mの前方後円墳(ぜんじょうごうえんふん)である雷神山古墳など、大小さまざまな古墳がこの時代につくられました。

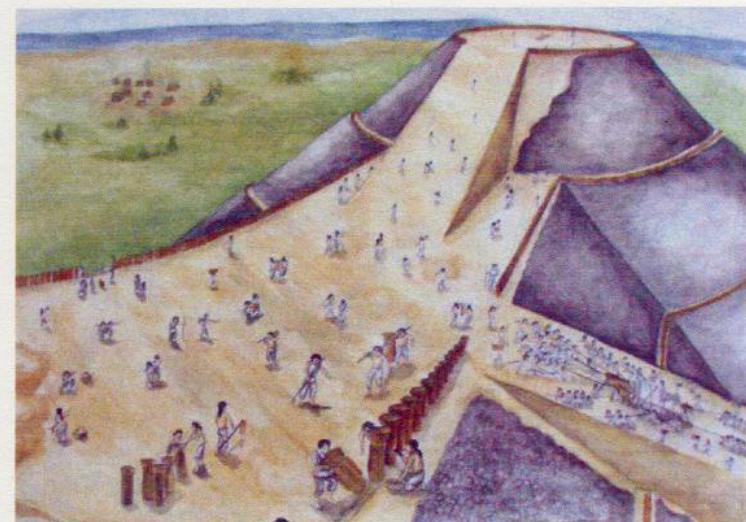
### 豪族とは：

地域の農作業(ゆうさぎょう)や土木工事(どぼくこうじ)などの指導者(じどうしゃ)や、特別(とくべつ)な技術(ぎじゅつ)を持った人のこと。

I -1-②

## なぜ、古墳が築かれたの

I -2-①



I -2-①

各地に分かれていたクニが、強いクニに吸収(きゅうしゆう)されて、さらに大きなクニが地方ごとにできていきました。地方を治(はさむ)めるクニの支配者(はいしゃ)は、農業の生産力(せいさんりょく)を高めるために、弱いクニを支配下(わいげ)におき、多くの労働力(ろうどうりょく)を集めて、用水路(ようすいろ)や排水路(はいすいろ)の工事を行って水田(すいたん)を開いていました。支配者は大きな権力をもっていたのでしょうか。

そのような支配者は、権力があることを人々にしめして、人々を治めるために、巨大な墓「古墳」をつくりました。

I -2-②



I -1-③